

『サンサロようふく店』

アン・ゼソン/作・絵

林 木林/訳 TOY Publishing



まだ、だれもが みんなよくふくを きていたころ、  
町なかの三さに はじめてのようふく店が でき  
ました。お店のあるじは ドックさんです。おきや  
くさんの体に合うよう ていねいに したてられた  
ようふくは、いつしか にんきになっていきます。

『どうすればいいのかな?』

わたなべ しげお/ぶん

おおとも やすお/え 福音館書店



シャツを はいたら どうなる? あれ、なん  
だか ちょっと へんかも。そうそう、シャツは  
きるもの。うえから かぶって きてみよう。さ  
あ、こんどは ぱんつ と ぼうし。じょうずに ひ  
とりで おきがえ できるかな?

『時間をやくパン屋さん』

キム・ジュヒョン/作 吉原 育子/訳

スクラッコ/絵 金の星社



ツイていなかった日、あまいにおいに  
ひきよせられピーターがであったのは、  
「時間をやくパン屋さん」。覚えておきたい時間  
の味をパンにやいてくれる、変わったパン屋さん  
です。依頼主がこねる生地がここのパンのひみ  
つ。今日はどんな注文がくるのでしょうか。

『ぼくは勇者をたすけたい』

中松 まるは/作 めばち/絵

童心社



オンラインゲームで友達ができた“ぼく”。友達  
になった「勇者」は顔も名前も知らない人です。  
そんなある日、ぼくの学校で起こった出来事を  
勇者が話し出しました。どうして知っているのだ  
しょう? ぼくは、勇者が同じクラスにいるのか  
もしれないと思いはじめます。

はじめの  
だいいっぱ

『子どもの本の世界を変えた  
ニューベリーの物語』

ミシェル・マーケル/文

ナンシー・カーペンター/絵 金原 瑞人/訳

西村書店 その昔、子どもの本は  
大人向けの本を短くした昔話や規則の本など、  
楽しいものではありませんでした。それを変え  
たのがニューベリーという人物です。彼はどん  
な楽しい本を作ったのでしょうか。



『うみへいった  
ちいさなカニカニ』

クリス・ホートン/作

木坂 涼/訳 BL出版



ちいさなカニカニは、はじめてのうみに やって  
きました。さいしょは たのしそだったのに、い  
ざ うみをみて すこし しんぱいそうです。「おもう  
に…」「ぼくたち、うみにはいらぬほうが いい  
かもね」カニカニは うみを たのしめるのかな?

『仲よくなる力は人生最大のスキル  
こんなときどう言う?事典』

齋藤 孝/著 サンマーク出版

「仲よくなりたい子がいるけど、なんて  
声をかけよう?」「なんて言ったらいやな思いを  
させないだろう?」そんな時はこの本におまか  
せ! 勇気を出して話しかけたい時の言い方を  
紹介しています。



『ぼくはあるいた まっすぐ  
まっすぐ』

マーガレット・ワイズ・ブラウン、  
坪井 郁美/ぶん 林 明子/え

ペンギン社

おばあちゃんから でんわを うけたぼくは、ひ  
とりで おばあちゃんのおうちへ むかいます。い  
きかたは かんたん。ずっと まっすぐ まっすぐ  
いけば たどりつくようです。さあ、しゅっぱつ!

